

平成 26 年 1 月 6 日

年頭訓示

市民ホール 大ホール

新年明けましておめでとうございます。

職員の皆さんには、お健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

また、皆さんには昨年も、それぞれの部署で職務に精励し、市民福祉の向上に努められるとともに、東日本大震災の被災地である宮城県塩竈市や、台風 18 号により大きな被害を受けた小浜市など、被災地の支援活動にも従事をいただき、深く感謝申し上げます。

本市においても、昨年は 7 月 30 日と 9 月 16 日に激しい雨が降り続き、市災害対策本部を設置して厳重な警戒体制を敷く中、吉野瀬川の水位が上昇を続けたため、流域住民等に 2 度にわたって避難勧告を発令する事態に見舞われました。

幸い、越水には至りませんでした。農林業施設等に被害が発生したことから、吉野瀬川の放水路の一日も早い完成と吉野瀬川ダム of 早期着手など、県に対して改めて要望を行ったところです。

また、原子力防災については、県が昨年 12 月 20 日

に住民避難の中核となる広域避難先施設を公表したことから、市では12月24日に市防災会議を開催し、「市地域防災計画〈原子力災害対策編〉」と「同・住民避難計画」を策定しました。

今後は、避難経路やヨウ素剤の保管・配布方法など残された課題に関する国・県の方針の取りまとめを待ち、地域防災力の一層の充実強化を図ってまいります。

さて、昨年を振り返ると、県内の自治体では初めて、3月議会で「読書のまち宣言」の議決をいただき、5月5日に「読書のまち宣言式」を行うとともに、その推進拠点として、「越前市ふるさと大使」のかこさとし氏のご協力をいただき、4月26日に「かこさとし ふるさと絵本館 碩」を開館しました。

また、平成30年の「福井しあわせ元気国体」のフェンシング会場となる武生中央公園体育館の改築に向け、本年度から基本設計に着手するとともに、9月21日には丹南総合公園が一部供用開始され、野球場と多目的グラウンドの利用が始まるなど、スポーツ施設の整備が大きく進みました。

「福井しあわせ元気国体」に向けては、指導者や選手

の育成等を図るため、日本サッカー協会の名誉会長で「越前市ふるさと大使」の小倉純二氏を特別顧問に迎え、4月に「競技力向上プロジェクト」を始動しました。

「コウノトリが舞う里づくり」では、白山地区で飼育しているコウノトリの「ふっくん」と「さっちゃん」が5月に5個の卵を産卵したものの、無精卵であったことから、ヒナの誕生は本年に持ち越しとなりました。

しかし、「SATOYAMA 国際会議 in ふくい」が9月に越前市などで開かれるとともに、11月17日には「2013コウノトリが舞う里づくり大作戦」を王子保小学校で開催し、「子どもかいぎ」を行うなど、多くの取組みを実施しました。

ものづくりの振興では、年末の12月26日に「越前箆笥」が国の伝統的工芸品に指定されました。

伝統的工芸品は全国で218品目、福井県で7品目が指定を受けており、越前市では越前和紙・越前打刃物に続いて3品目目の指定となりました。

今回の指定を弾みに、伝統産業の振興と地域の活性化を図るため、本年から市工芸の里構想を策定してまいります。

都市基盤の整備では、本市の東西を結ぶ骨格道路である都市計画道路・戸谷片屋線が昭和58年の着工以来、31年の歳月を経て8月23日に全線開通し、本市の交通ネットワークが飛躍的に整備・発展しました。

一方、懸案の新庁舎建設では、「本庁舎を現在地に建設するとともに、今立総合支所を改築して存続させる」との方針を9月議会において表明しました。

その理由としては、国全体のまちづくりの方向性が「拡大型」から人口減少社会に対応する「成熟型」に大きく転換したこと、合併当時の予想よりも早く人口減少・少子高齢社会が進展していること、三位一体の改革により地方交付税が大きく減少する一方、少子高齢化の進展により扶助費が急激に増大していることなどが挙げられ、本市の将来を展望した場合、最善の方針と確信して提案したものです。

来たる3月議会で新市建設計画の変更議案等の議決をいただき、平成26年度からは基本構想や基本計画の策定など、新庁舎の建設に着手したいと考えています。

さて、昨年は10月に市長選挙が行われ、お陰様で市民の皆様の絶大なご支持をいただき、引き続き市政運営

を担わせていただくことになり、その責任の重さを強く感じています。

3期目の市政運営に当たっては、新庁舎の建設や武生中央公園の再整備、北陸新幹線「南越駅」(仮称)の周辺整備など、半世紀に一度の「まちづくり(基盤整備)」に全力で取り組んでいきたいと決意しており、昨年10月に決定した「平成26年度越前市当初予算編成方針」においても、「地域防災力の充実強化」「経済・雇用対策の推進」「次世代を育む施策の推進」などに加え、新たに「まちづくり基盤整備の推進」を重点項目と位置付け、メリハリのある予算編成を進めています。

本年も皆さんと力を合わせて、「夢を育む教育」や「コウノトリが舞う里づくり」など、長期的な視点に立った「ひとづくり、ものづくり、まちづくり」に取り組み、人と人との絆づくりや自然との共生を重視した、安定感と安心感のある市政を目指してまいりますので、皆さんの引き続きのご協力をお願いします。

その際、市民の皆様の期待に確実に応えていくには、毎年お願いしている通り、全職員がコツコツと課題に取り組み、当たり前前のことを当たり前前に実践する風土を庁

内に築いていくことが肝要です。

一人ひとりの職員の小さな実践の積み重ねが、結果として大きな成果を生み出し、着実な市政の発展につながっていくからです。

職員の皆さんには、越前市の将来に大きな夢を描き、それぞれの部署でコツコツと地道に職務に精励し、「現地現場主義」の実践を通して市民のニーズを的確に汲み取りながら、市民の目線に立った市政の推進にご尽力をお願いいたします。

併せて、去年は残念な出来事もあったことから、市民の信頼を決して裏切ることのないよう、職員の皆さんには自らを厳しく律し、緊張感をもって日々の生活を送っていただくことをお願いいたします。

結びに、皆さんが本年も心身ともに健康で、市民福祉の向上のために大いにご活躍されることを祈念して、平成26年の「仕事始め式」の訓示といたします。

本年も、よろしく申し上げます。